

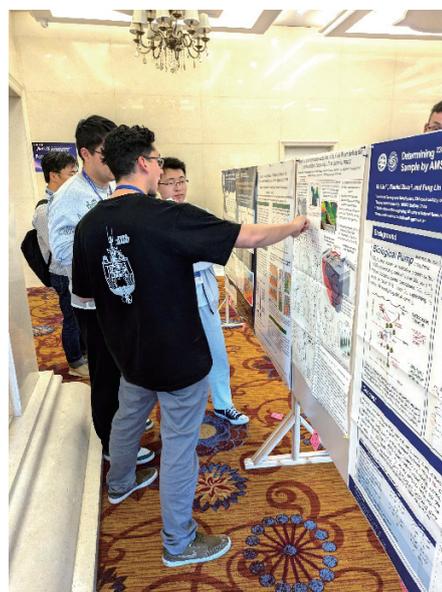
## 令和6年度伊藤光昌氏記念学術助成金(海外渡航助成)成果報告書

研究課題番号	R6-T2
研究者氏名	Rodrigo Mundo
所属・職 (または学年)	Instituto de Investigaciones Tropicales de El Salvador, Co-investigater
渡航目的	The 16th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry に出席し、長寿命放射性核種ヨウ素 129 から見たオホーツク海南部に出現する冷水帯の形成メカニズムについて発表する事
渡航先	桂林, 中国

	渡航費	滞在費	その他	総計
助成金額に基づく予算額(円)	140,000	70,000		210,000
実際の使用内訳(円)	194,550	12,290	3,160	210,000

### 渡航目的とその成果, 感想

3年ごとに開催される International Conference on Accelerator Mass Spectrometry に参加し、オホーツク海における新たな水塊トレーサとなりうる長寿命放射性核種ヨウ素 129 を用いた応用研究を発表した。ポスター発表ではオホーツク海南部における冷水帯 (Cold Water Belt, CWB) の形成メカニズムについて2つの説を議論した (1. 西能登呂岬での共鳴による日本海中層水の湧昇, 2. 宗谷暖流の南東進後の傾圧波調整によるサーモクライン上昇)。冷水帯のトレーサとなりうるヨウ素 129 (あるいは  $^{129}\text{I}/^{127}\text{I}$  比) の研究結果を中心に、様々な研究者とディスカッションする事ができた。特に興味を持って頂いた Seville 大学所属する Centro Nacional de Aceleradores の Jose Maria Lopez Gutierrez, PhD, およびフィリピン原子力研究所の Angel BAUTISTA VII とは、学会後も連絡を取り合ってヨウ素 129 の応用について議論を続けている。ポスター発表はコアタイムよりも延長して議論を行い、来て頂いた方々のおかげで大成功であった。学会参加のおかげで次のステップとしてはヨウ素 129 を使って沿岸帯水



層への塩水侵入を研究することをフィリピンと日本の研究者の共同で研究を試みたいと考えている。更には、海洋学の更なる発展において、海洋化学者や水文地形学者のみならず、加速器質量分析を専門とする物理学者とのコラボレーションが大事であることを改めて理解できた。今後も機会があれば国際学会に積極的参加し、様々な分野に跨ることが出来る、国際的に活躍できる研究者を目指したいと考えている。